

大雪山国立公園連絡協議会

大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会（第7回）

日時：令和7年6月26日（木）13:30～

場所：せんとぴゅあⅡ

（オンライン併用）

次 第

1. 開 会

2. 議 事

（1）山岳トイレ等に関する検討課題の整理について

（2）大雪山国立公園における山岳トイレの配慮事項について

（3）携帯トイレ普及宣言推進事業について

① インバウンド向け携帯トイレ動画の制作について

② 富良野岳 携帯トイレブース設置・普及キャンペーン

③ 黒岳携帯トイレ普及キャンペーン

④ 「大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ」の販売に関するご案内

3. 報告事項

各構成員における取組状況及び取組予定

4. その他

5. 閉会

【配布資料】

次第・出席者名簿

資料 1 山岳トイレ等に関する検討課題の整理

資料 1 別紙 大雪山国立公園における山岳トイレ等設置状況
野営指定地別のトイレ関係施設等状況
登山口別のトイレ関係施設等状況

資料 2 大雪山国立公園における山岳トイレの配慮事項

資料 3 インバウンド向け携帯トイレ動画の制作について

資料 4 富良野岳 携帯トイレブース設置・普及キャンペーン

資料 5 黒岳携帯トイレ普及キャンペーン

資料 6 「大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ」の販売に関するご案内

資料 7 2025 年度の実施予定（山のトイレを考える会）

参考 大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会の設置について
（令和 6 年 5 月 17 日改定版）

令和 7 年 6 月 26 日

大雪山国立公園連絡協議会 大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会（第 7 回）
出席者名簿

【構成員】

名称	出席者（敬称略）	出欠
上川中部森林管理署	地域林政調整官 大谷 数久 総括森林整備官 加藤 和宏 地域統括森林官 秋元 郁弥	会場
上川南部森林管理署	森林情報管理官（管理） 内藤 朝子 総務グループ（管理） 田辺 結葉	WEB
十勝西部森林管理署東大雪支署	総括事務管理官 菊池 寿幸 事務管理官 玉川 知弥 一般職員 坂本 奈未	WEB
かみふらの十勝岳観光協会	会長 青野 範子	会場
株式会社りんゆう観光	—	欠席
道北バス株式会社	—	欠席
大雪と石狩の自然を守る会	運営委員 寺前 洋己	会場
十勝自然保護協会	—	欠席
北海道大学 渡辺 悌二名誉教授	名誉教授 渡辺 悌二 助教 王 婷	会場
北海道大学大学院農学研究院 愛甲 哲也教授	教授 愛甲 哲也 修士 1 年 粒來 綾香	会場
北海道上川総合振興局	環境生活課 主査（山岳環境） 中島 浩之	会場
北海道十勝総合振興局	環境生活課 係長 滝下 麻耶 主任 山内 雄大	WEB
富良野市	商工観光課 早川 佳尋	WEB
上川町	産業経済課 主事 渡辺 光貴 主事 合佐昆 陵汰	会場
東川町（旭岳ビジターセンター）	所長 田渕 浩	WEB
美瑛町	—	欠席
上富良野町	企画商工観光課 主事 五十嵐 圭飛	WEB
士幌町	係長 戸水 祐也	WEB
上士幌町	商工観光課 主査 松岡 佑昌	WEB
鹿追町	—	欠席
新得町	—	欠席
層雲峡ビジターセンター	インタープリター 佐久間 弘	会場
NPO 法人かむい	代表理事 濱田 耕二	会場
Asahidake Trail Keeper	代表 藤 このみ	会場
NPO 法人大雪山自然学校	旭岳自然保全員 大塚 航平 廣瀬 さつき	会場

勤労者山岳連盟（道央地区）	副理事長兼自然保護委員長 伊吹 省道	WEB
合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊	代表社員 岡崎 哲三	会場
山樂舎 BEAR	代表 佐久間 弘	会場
大雪山倶楽部	西元 徹	WEB
TREE LIFE	－	欠席
山のトイレを考える会	事務局長 仲俣 善雄	会場
美瑛山岳会	－	欠席
山岳レクリエーション管理研究会	事務局長 山口 和男	会場
NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター	－	欠席
十勝山岳連盟	会長 齊藤 邦明	WEB

【オブザーバー（出席団体のみ記載）】

名称	出席者（敬称略）	出欠
大雪山国立公園パークボランティア連絡会	会長 垣内 雅人	会場
上富良野十勝岳山岳会	会長 井上 文雄	会場

会場出席 17 団体／23 名

WEB 出席 11 団体／15 名

【事務局】

所属	出席者	
北海道地方環境事務所 大雪山国立公園管理事務所	所長 岡島 一徳 国立公園利用企画官 高橋 広子 上席国立公園管理官 友野 雄己 係員 森田 夕貴 自然保護官補佐 坂井 まお 自然保護官補佐 永瀬 大悦	
東川管理官事務所	国立公園管理官 菅野 敬雅 自然保護官補佐 渡邊 あゆみ	
上士幌管理官事務所	国立公園管理官 永田 拳吾 自然保護官補佐 上村 哲也	

■山岳トイレ等に関する検討課題の整理

※個別の施設や地点については、別紙資料（山岳トイレ等設置状況・登山口情報）を参照

資料 1

2025/6/26 第7回部会

検討課題	主な取組項目及び目標	取組主体	～2024(R6)年度【実施・検討状況】	現状評価・課題の整理	目標及び評価指標 (5～10年後)	2025(R7)年度～【実施予定・計画】	備考
1. 山岳トイレ等の利用環境づくり							
(1)山岳トイレ等の配置計画の検討	山岳地域におけるトイレ及び携帯トイレブースの設置のあり方について、自然環境及び景観への影響、避難小屋及び野営指定地等との関係性、利用形態及び利用者数、維持管理体制の確保等を総合的に勘案した上で、全体的な配置計画を検討し、自然環境保全及び適正な利用環境を確保する。	事務局	・部会において、山岳トイレ等に関する基本的考え方、検討課題、山岳トイレの設置状況等について整理 ・R6；「配置基準」の素案を作成	・本検討により、部会内で基本的な考え方に対する土台を設けた上での各個別課題に関する議論が容易になるものと想定。 ・トイレ施設の設置には設置者や管理者が必要であることから、部会内での議論や連携のみでは進展や解決に至るとは限らない。	・「配慮事項」の作成をもって一旦目標達成と捉え、次の目標や評価指標は状況をみて設定。（第7回部会では議事2において確認、議論）	・R7：「配慮事項」として確定し、示された配置に関する基本的な考え方に基づき、例えば地区や地点を絞って検討を進めるといった進め方が考えられる	
(2)「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」等に関する効果検証	・携帯トイレブースの設置数、利用状況、野外し尿確認状況、携帯トイレ販売数、パートナー数等、一連の目標指標について、継続的にデータ収集を実施	事務局	・R2年度～継続実施	・各取組や普及状況の進捗を定量的に把握できているが、数値上は近年横這いとなっている項目に対する評価や、検証を行う項目の設定自体を見直していく余地があるのでは。 ・利用者の意識等、より広範な普及状況の把握・評価を行うには別途調査する必要あり	・他の項目による各取組の評価指標として用いる。	・継続して実施しつつ、評価指標として積極的に活用することができるよう状況により収集項目の見直しや別途調査の実施も検討する	
(3)携帯トイレ普及促進に関するパートナーシップの強化	・大雪山オリジナル携帯トイレの民間事業者による一括受注の支援 ・パートナーシップ拡大に向けた事業者との調整	事務局	・パートナーシップの強化については、大雪山国立公園周辺における拠点施設（駅、空港、観光施設等）にはたきかけを実施。	・パートナー数は横ばいが続き、拡大には至っていない。 ・オリジナル携帯トイレ卸数は年による増減が多い。	・携帯トイレ普及、大雪山での取組周知のために、パートナー数の拡大を引き続き目指す。	・引き続き一括受注の支援とともに、働きかけが効果的と考えられる携帯トイレ販売希望箇所のリストアップ、販売や利用促進に関する情報発信等の拡大に向けた方策を検討。	
2. トイレ施設の維持・改善							
(1)利用状況の把握	・既存施設の再整備や効率的な維持管理を進める上での利用状況の把握	北海道	・R6：忠別岳避難小屋へのノート設置による利用状況把握調査		・5～10年程度での各施設の改修や改善実施に繋げられるよう、各主体での取組と部会での情報共有、必要に応じた連携を進める		
	・YAMAPを活用した利用者数の推計	北海道大学大学院農学研究院				・YAMAPを活用した利用者数の推計	
(2)汚泥等搬出手法の検討	・定期的な汚泥搬出を可能とするための搬出手法検討・確立	北海道山岳整備	・ドローンによる山岳物資輸送の試験実施に向けた検討			・運搬用ドローンの試験飛行	
		環境省	－	白雲岳及び忠別岳避難小屋付帯トイレ再整備に向けては、継続的に実施可能な汚泥運搬等維持管理手法・体制の見通しを得る必要がある。	・R7：ドローンの活用等山岳物資輸送手法検討、スノーモビルで搬出を行う場合の費用試算等を実施予定		
3. 広報、普及啓発							
(1)来訪者が携帯トイレを認知、持参し、使用するための情報発信、普及啓発（増加している外国人利用者向けの取組を含む）	・登山者に対して直接普及啓発することを目標とした、現地での携帯トイレ普及キャンペーン	事務局	・2019年以降、赤岳9合目、中岳温泉、富良野岳登山道で実施（仮設携帯トイレブース設置、関係者と協働での維持管理・普及啓発活動） ・2024年は富良野岳登山道で実施	・携帯トイレ持参率は肌感覚でも上昇している中、携帯するだけでなく実際に現地で使用するという部分への普及啓発等の取組が有効と考えられる。	・携帯トイレ普及促進、山岳トイレマナーの確保のために、各取組の維持や継続が必要。その中で、実施内容やポイントは随時検討し見直していく。 ・上記に対する評価指標の設け方は要検討事項。	・R7：富良野岳登山道での継続実施と、黒岳・層雲峡地区で山の日キャンペーンの一環として実施予定	
	・携帯トイレ普及宣言に関する広報媒体の作成、利用拠点施設やWebでの情報発信	事務局	・R6：携帯トイレ使用方法の動画試作、大連協HP英語サイトおよびグレートマップ英語版に保全ルールや携帯トイレ情報を掲載	・現地での情報発信だけでなく、旅マエでの情報発信に課題あり。インバウンドへの対応も特に意識する必要がある。		・R7：使用方法動画制作、チラシ増刷、英語版チラシ制作を予定	
	・トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト	北海道・環境省	携帯トイレ配布ボックス設置、痕跡調査、携帯トイレブース設置・効果検証やそれらを通した普及啓発活動を実施。	南沼野営指定地での痕跡数は少ない数字で推移しており、取組の効果が出ている。		各取組、効果検証のモニタリングの継続	
	・マイカー規制シャトルバス内での携帯トイレ普及宣言ポスター掲示	道北バス					
	・啓発資料「山のトイレマップ」の制作・配布	山のトイレを考える会	・毎年大雪山山麓の宿泊施設、ビジターセンター、森林管理事務所等に配備して登山者へ配布。大雪山地域では年間約7,000部を配布予定。			・R7：情報更新して周知、配布予定	

	名称	場所	設置年（西暦）	改修年	規模（面積）	基数	国立公園事業執行	設置者	設置方式・構造	管理主体・管理状況	課題	対応方針	備考
No.	<常設トイレ>												
1	黒岳石室トイレ	黒岳石室		2003年		2	有	北海道	生物処理方式（コンポスト式バイオトイレ）	・4ブース（うち、現在2ブースは携帯トイレブース） ・上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理、し尿汲み取り等は民間団体に委託（NPOかむい） ・黒岳石室の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施（りんゆう観光） ・利用者協力金500円／回を徴収し、し尿運搬費用に充填 ・R6：太陽光パネル&バッテリーを設置し換気ファンの稼働を再開（工事費用は上川地区登山道等維持管理連絡協議会が負担）	・生物処理が十分機能しておらず、汲み取りが必要。処理方式の改善や、将来的な再整備時の処理方式を要検討	・便槽のヒーター回線の状況を踏まえ、太陽光パネル、バッテリー等を増設し、試験的に1ブースのみ便槽を加温し本来のバイオ処理を目指す ・モンライト処理水質改善の検討	
2	白雲岳避難小屋トイレ	白雲岳避難小屋	1985年			2	有	北海道	汲取り式	・上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理 ・白雲岳避難小屋の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施（北海道山岳整備）	・環境省でTSS処理方式を用いた再整備の設計済だが、周辺自然環境への悪影響の可能性を排除できないとの指摘を受けて同処理方式による再整備は取り止め ・今後の再整備に向けて、処理方式の再設定およびその維持管理手法や体制の見通しを得ることが必要	・汲み取り式又はカートリッジ式を想定し、ドローン等による汚泥搬出方法の試験、検討 ・処理方式・管理手法の見通しと併せて、維持管理体制の見通しも確定させていく	
3	忠別岳南避難小屋トイレ	忠別岳南避難小屋	1985年			1	有	北海道	汲取り式	・直営 ・白雲岳避難小屋管理人による巡視時に点検・清掃の支援	同上	・汚泥搬出は冬期のスノーモビル使用が必要と考えられることから、必要な人数・費用の概算を進める ・再整備後の避難小屋を含めた、今後の維持管理の担い手や体制について要検討・調整	
4	ヒサゴ沼避難小屋トイレ	ヒサゴ沼避難小屋	1982年	2019年		1 (2穴)	有	北海道	汲取り式	・直営 ・白雲岳避難小屋管理人による巡視時に点検・清掃の支援	・処理方式の改善		
5	上ホロカメットク避難小屋トイレ	上ホロカメットク避難小屋	1980年			2	有	北海道	汲取り式	・直営 維持管理点検1回／月（7月～9月） ・地元山岳会による巡視時に点検・清掃の支援	・処理方式の改善		・
No.	<携帯トイレブース・常設>												
1	黒岳石室携帯トイレブース	黒岳石室	2020年			2	有	北海道	常設トイレ内	・2020年度に、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、携帯トイレ専用ブースを設置 ・上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理 ・黒岳石室の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施			
2	赤岳コマクサ平携帯トイレブース	コマクサ平	2022年			1	無	NPO法人かむい	常設型	・登山道巡視と合わせて定期的に点検・清掃を実施			
3	旭岳石室携帯トイレブース	旭岳石室	2002年	2021年		1	有	北海道	常設型	・東川町や民間団体による巡視時に点検・清掃支援 ・R3年度に交付金事業で改修実施	石室を含めた当該場所での今後の設置継続の必要性		
4	美瑛富士避難小屋携帯トイレブース	美瑛富士避難小屋	2019年	-	1.5×0.9=1.35㎡	1	有	環境省	常設型	・美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会とR元年に協定を結び協働で維持管理			
5	トムラウシ南沼野営指定地携帯トイレブース	南沼野営指定地	2002年、2019年			2	有	北海道	常設型	新得山友会に委託			
6	ニベツツ山前天狗携帯トイレブース	前天狗野営指定地	2002年			1	無	北海道	常設型	ひがし大雪自然ガイドセンターに委託			
No.	<携帯トイレブース・定期的設置>												
1	高原温泉エゾ沼携帯トイレブース	沼めぐり登山コース（エゾ沼）	2020年		1.4m×2.1m=2.94㎡	1	無	環境省	仮設組立型・木造	・ヒグマ情報センター管理運営業務請負者が、沼めぐり登山コースの巡視と合わせて日常的に点検、清掃を実施			
2	高原温泉緑沼携帯トイレブース	沼めぐり登山コース（緑沼）	2021年		1.4m×1.9m=2.66㎡	1	無	環境省	仮設組立型・木造	・ヒグマ情報センター管理運営業務請負者が、沼めぐり登山コースの巡視と合わせて日常的に点検、清掃を実施			
No.	<携帯トイレブース・試行設置>												
1	赤岳9合目携帯トイレブース	赤岳9合目	2019～2023年		1.1m×1.1m=1.21㎡	1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・R5年度設置期間は9/17～25（計9日間）	・携帯トイレ普及宣言推進事業の一環としてR5まで実施。R6は手続遅れにより中止。R7も見合わせ。	コマクサ平携帯トイレブース等周辺のトイレ配置状況や利用状況を勘案してR7は未計画。	
2	裾合分岐携帯トイレブース	裾合分岐	2024年			1	-	環境省	セルフ組立式パーティーション	・直営 ・R6年度に同事業により試行的設置	・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要		
3	中岳温泉携帯トイレブース	中岳	2019～2023年			1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・R5年度設置期間は、7/12～8/3、9/8～10/5（計49日間）	・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要		
4	旭岳9合目携帯トイレブース	旭岳9合目	2022年、2023年			1	-	環境省		・R4～5年度に旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務により試行的設置	・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要		
5	裏旭野営指定地携帯トイレブース	裏旭野営指定地	2023年、2024年			1	-	環境省		・旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務により、試行設置とその利用状況、周辺植生の影響調査、野営指定地の利用者数等の調査を実施。 R6：7/4～9/30設置、カウンター数値580	・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について、野営指定地のあり方も含めた整理が必要		
6	富良野岳携帯トイレブース	標高1580m地点（通称お花畑）	2023年～			1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・関係機関と協働で管理 ・R6年度設置期間は6/27～8/19（計54日間）、7/20及び7/21等に携帯トイレ普及キャンペーンを実施	・R5年度から、携帯トイレ普及宣言推進事業の一環として設置。当該場所での必要性等について整理が必要。		
7	トムラウシ山登山道	カムイサンケナイ川治い	2022年～			1	-	環境省	仮設テント式	・R4年度～シーズン中のみ試行的設置（職員実行）			

●野営指定地別のトイレ関係施設等状況

2025年6月現在

場所	市町	トイレ/携帯トイレブース		避難小屋		管理状況	利用者数情報(R6)	課題の整理	今後の方針
		有無	備考	有無	管理者	管理人			
黒岳	上川	○	避難小屋トイレ	○	北海道	○	利用協力金500円/人		
白雲岳	上川	○	避難小屋トイレ	○	上川町（環境省施設）	○	上川町管理（環境省との協定に基づく） 宿泊協力金500円/泊	宿泊者数：994	
忠別岳	上川	○	避難小屋トイレ	○	北海道	×		避難小屋に設置したノートへの記録では7/3～9/21のテント数43張 ・避難小屋及ぶ付帯トイレは今後環境省による改修を予定	
裏旭	東川	×	R5・6に環境省業務で仮設携帯トイレブースを施行設置	×				7/19～9/29（73日間）でテント数168張、約228人	
ヒサゴ沼	新得	○	避難小屋トイレ	○		×			
トムラウシ南沼	新得、美瑛	○	携帯トイレブース	×					
双子池	美瑛、新得	×		×					
美瑛富士	美瑛、新得	○	携帯トイレブース	○		×			
上ホロカメットク	上富良野、新得	○	避難小屋トイレ	○	北海道	×			
沼ノ原大沼	上川	×		×				・沼畔に位置し、時期により水没する ・携帯トイレブース設置の必要が課題提起されており（＜山トイレの会R6調査報告書）、維持管理体制の検討が課題とされている	
ブヨ沼	上士幌、上川	×		×					
小天狗のコル	上士幌	×		×					
ニペソツ山前天狗	上士幌	○	携帯トイレブース	×				管理運営計画改定時に追加 大連協HPの登山情報>野営指定地にも未掲載	

●登山口別のトイレ関係施設等状況

2025年6月現在

場所		市町	避難小屋 ・山小屋	野営場	トイレ		携帯トイレ回収ボックス		携帯トイレ販売		入山者数（R6）	備考
登山口	層雲峡	上川	無	有	有		有	設置：環境省 回収：層雲峡を美しくする会	有	○層雲峡ビジターセンター ○黒岳ロープウェイ売店、7合目売店 ○セイコーマート層雲峡店		
	黒岳7合目	上川	有	無	無	→5合目駅舎内 ※トイレがないことが課題として挙げられてるものの、設置者や維持管理体制の確保が課題。「大雪山国立公園における山岳トイレの配置基準について」参照。	無	→層雲峡	無	→層雲峡	40,000	
	銀泉台	上川	無	無	有	マイカー規制実施期間中は仮設式も設置	有	設置：上川町 回収：層雲峡を美しくする会	無	○マイカー規制シャトルバス発着場（9月中旬）	9,400	
	大雪高原温泉	上川	有	無	有		有	設置：上川地区登山道維持管理連絡協議会 回収：層雲峡を美しくする会	有	○大雪高原山荘 ○ヒグマ情報センター ○マイカー規制シャトルバス発着場（9月下旬）	2,900（緑岳コース） 3,700（沼めぐり登山コース）	
	クチャンベツ	上川	無	無	有	仮設式、1ブースは携帯トイレ用	無	一般廃棄物収集範囲外のため設置困難とされている	無			
	愛山溪温泉	上川	有	無	有	仮設式	有	設置・回収：上川町	有	○愛山溪倶楽部	2,100（愛山溪温泉登山口） 700（松仙園登山口）	
	旭岳温泉	東川	無	有	有		有	設置・回収：東川町	有	○旭岳ビジターセンター ○旭岳ロープウェイ（姿見駅売店） ○ホテルペアモンテ ○ホテルディアバレー ○セイコーマート東川店 ○道の駅ひがしかわ・道草館		
	姿見	東川	有	無	有		無	→旭岳温泉	無	→旭岳温泉	11,000（姿見の池・裾合平方面） 31,000（姿見の池・旭岳方面）	
	天人峡	美瑛	無	無	無		無		無		500	
	白金温泉望岳台歩道登山口（白金観光センター）	美瑛	無	有	有		有	設置・回収：美瑛町（山のトイレを考える会寄贈）	有	○ホテルパークヒルズ ○湯元白金観光温泉ホテル ○大雪山白金観光ホテル ○白金観光センター		
	美瑛富士登山口	美瑛	無	無	無		無		無		2,100	
	望岳台	美瑛	無	無	有		有	設置・回収：美瑛町	無			
	吹上温泉	上富良野	無	有	有		有	設置・回収：上富良野町	有	○セブンイレブン 上富良野東町店 ○セイコーマート 上富良野宮町店 ○白銀荘	1,500（十勝岳登山口・美瑛岳方面 ※R5） 13,000（十勝岳登山口・十勝岳方面）	
	十勝岳温泉	上富良野	無	無	有		有	設置・回収：上富良野町（山のトイレを考える会寄贈）	有	○十勝岳温泉凌雲閣	19,000（安政火口）	
	原始ヶ原登山口	富良野	有	無	有		無		無	○ふらの観光協会	500	
	十勝岳新得コース	新得	無	無	無		無		無		0～50	
	トムラウシ温泉	新得	無	有	有		有	設置：北海道 回収：新得町	有	○トムラウシ温泉東大雪荘 ○セイコーマート屈足店 ○セブンイレブン新得町南店	200	
	トムラウシ短縮コース	新得	無	無	有		有	設置：北海道 回収：新得町	有	○同上 ○南沼汚名返上プロジェクトとして登山口に配布ボックスを設置（R4～、1つ500円の協力金）	3,300	
	ユニ石狩岳登山口	上士幌	無	無	無		無		無		200	
	シュナイダーコース	上士幌	無	無	有	仮設式	無		無		1,000	
	ニペソツ山十六の沢コース	上士幌	無	無	無		無		無			
	ニペソツ山幌加温泉コース	上士幌	無	無	有	仮設式	有	設置：北海道 回収：上士幌町	無		1,300	
	ウペササンケ山糠平コース	上士幌	無	無	無		無		有	○ひがし大雪自然館 ○セイコーマートうえだ上士幌店	600	
	天宝山	上士幌	無	有	有		無		有	同上		
	白雲山士幌側	士幌	無	有	有		無		無		800	
	白雲山然別湖側	鹿追	無	無	有	仮設式	無		無		1,900	
	南ペトウトル山	鹿追	無	無	有		無		無		200	
	東ヌプカウシヌプリ	鹿追	無	無	無		無		無		1,800	
	西ヌプカウシヌプリ	鹿追	無	無	有		無		無			

■大雪山国立公園における山岳トイレの配慮事項（案）

【目的・主旨】

山岳域全体での山岳トイレ施設の配置に関して配慮すべき項目を設定・整理することで、山岳トイレの諸課題や改善策、個別の地点や施設についての議論を進めていく上で土台となる共通理解を形成することを目的とする。

また、個別の施設の設置や改修を検討する際に、配慮すべき事項の指標として活用する。

【留意事項】

- ・ 配慮すべき項目への適合度が高い場合に必ず配置を検討するものではない。
- ・ 現状の避難小屋及び野営指定地等の位置や規模は必ずしも前提とせず、それらの適切さについても将来的には考慮が必要。

【配慮すべき項目】

1. 自然環境や景観への影響の配慮
 - 1-1 景観及び自然環境の保全が主目的であること
 - 1-2 設置物が展望方向等、風致景観上の支障になる位置・規模ではないこと
 - 1-3 設置によって脆弱な生態系への影響が生じる場所ではないこと
 - 1-4 沼・沢・湿地・水場や流水による汚染など、し尿の負荷をかけてはいけない場所に考慮
2. 維持管理体制の確保
 - 2-1 設置場所に応じた適切な処理方法等を採用できること
 - 2-2 処理方法等に応じた適切な維持管理体制が確保できること
3. 位置関係や利用状況の考慮
 - 3-1 登山口／歩道の起点
 - 3-2 宿舎／避難小屋／野営場／園地／休憩所／ロープウェイ駅舎等施設（公園事業）
 - 3-3 野営指定地／休憩ポイント／分岐
 - 3-4 大雪山グレード（利用体験ランクの低い数字に考慮）
 - 3-5 利用者数を考慮
4. 携帯トイレの入手・回収
携帯トイレの入手・回収体制を整えることが望ましい

■項目の解説

1. 自然環境や景観への影響の配慮

1-1 景観及び自然環境の保全が主目的であること

植生の悪化、踏み分け道の発生等、自然環境へ悪影響が発生している箇所の保全を主目的とする。

1-2 設置物が展望方向等、風致景観上の支障になる位置・規模ではないこと

設置によって主要な展望方向への眺望を阻害する位置・規模としないようにする。

1-3 設置によって脆弱な生態系への影響が生じる場所ではないこと

高山植物帯など、施設の利用や設置そのものによって生態系への影響が懸念される場所は避ける。

1-4 沼・沢・湿地・水場や流水による汚染など、し尿の負荷をかけてはいけない場所に考慮

し尿による汚染で自然環境や公園利用者への悪影響が懸念される場所、融雪等の流水によってし尿が流される場所は避ける。

2. 維持管理体制の確保

2-1 設置場所に応じた適切な処理方法等を採用できること

設置場所の適切な利用人数や利用頻度、処理方法（常設トイレ及び携帯トイレブースの使用説明・巡回・清掃頻度、これら作業時の安全確保など、適切な維持管理体制の構築が重要。

2-2 処理方法等に応じた適切な維持管理体制が確保できること

常設トイレの各種処理方法ごとの適切な汚泥処理や常設トイレ及び携帯トイレブースの使用説明・巡回・清掃頻度、これら作業時の安全確保など、適切な維持管理体制の構築が重要。

3. 位置関係や利用状況

3-1 登山口／歩道の起点

天人峡温泉や愛山溪温泉など、登山前後に使用できる位置

3-2 宿舎／避難小屋／野営場／園地／休憩所／ロープウェイ駅舎等施設（公園事業）

十勝岳避難小屋、黒岳リフトの終点など、登山者による利用が多い施設や地点

3-3 野営指定地／休憩ポイント／分岐

公園事業施設以外の場所で、野営指定地や登山者がよく休憩ポイントとして使用する場所

3-4 大雪山グレード（利用体験ランクの低い数字に考慮）

観光利用者向け探勝ルートグレード1や軽登山ルートグレード2などは、グレードの高い登山道より、一定程度整った利用体験環境となるよう考慮する

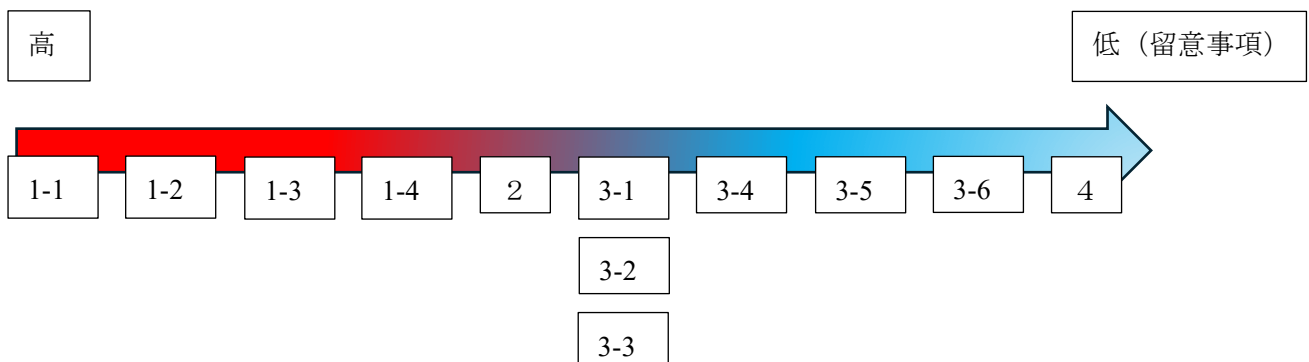
3-5 利用者数を考慮

登山者数や避難小屋等の施設利用者数が多い場所への配置は少ない場所より必要性が高く、一方で、トイレ配置により利用環境が整うことで登山者数が過剰になる懸念がある場所への配置は慎重に検討する。

4. 携帯トイレの入手・回収

登山口や携帯トイレブース周辺等にて携帯トイレを入手できること及び回収ボックス設置等の回収体制が整っていること。また、新たに携帯トイレを設置する場合には入手・回収のしやすさも考慮する。

■優先順位付け



■配慮事項に基づく個別検討課題の整理

大雪山山岳域での山岳トイレの配置に関する現在の主要個別課題について、上で設定した配慮すべき項目とその優先順位付けに沿って、次の通り整理しておくこととしたい。

●黒岳 7 合目付近

- ・登山客から一般観光客まで、年間を通して多くの利用が見られる（黒岳登山口 R6.6～10 月入山者数約 40,000 人）。
- ・最寄りのトイレは黒岳 5 合目ロープウェイ駅舎内、山頂方面では黒岳石室。
- ・項目 3（位置関係や利用状況）の各項目を考慮すればトイレ又は携帯トイレブースの必要度は高いが、設置した場合の利用人数や頻度は低くないことが想定され、処理方式の選定や適切な使用方法の確保などを始め、項目 2 が大きな課題になると思われる。

●沼ノ原大沼

- ・クチャンベツ登山口から登り 3 時間弱・下り約 2 時間の位置にあるが、縦走線沿いは石狩連峰・五色ヶ原方向ともにトイレ施設はない。
- ・野営指定地としての宿泊利用があり、項目 3-3 に該当。一方、利用者は本格的な登山者に限られ数も少ないため、項目 3-4 や 3-5 への適合度は低い。
- ・携帯トイレブース等の設置を検討する場合、沼畔となるため設置地点や管理方法といった項目 2 への適合が大きな課題となる。また、項目 1-1 による必要性（→大沼や周辺の景観及び自然環境の保全を主目的とすること）を明確にすべきと考えられる。

●旭岳周辺

- ・姿見の池を拠点とする周回コース（旭岳～お鉢～中岳温泉）、あるいは縦走など多くの登山利用が見られる（R6 入山者数：姿見の池・旭岳方面約 31,000 人、同・裾合平方面約 11,000 人）
- ・既存トイレは姿見の池園地内以外は、上記周回コース上にはない。
- ・R 元～6 年の間に、旭岳 9 合目、裏旭野営指定地、中岳温泉、裾合分岐で効果検証を目的とした仮設トイレブース設置を環境省で実施。
- ・項目 3-3～3-6 を考慮するとトイレ又は携帯トイレブースの必要性は認められる一方、項目 1 の各項や項目 2 を優先して要考慮。

インバウンド向け携帯トイレ動画の制作について

平成30年度の「携帯トイレ普及宣言」によって、大雪山では携帯トイレの普及が進んでいる一方、初心者やインバウンドの登山者には携帯トイレへの理解が未だ十分には進んでいない。

そこで、「なぜ携帯トイレを使わなくてはならないのか」といった理由、使い方を含め、簡単な英語やピクトグラム、動画等で、登山前に見ていただけるような1分～2分程度の短い動画（リール）を作成する。作成した動画は、ホームページやSNSでの発信のほか、観光案内所や各登山口周辺のホテル等でも自由に使っていただけるようにする。

◆動画イメージ

- ・リポート風 演者（環境省職員）が実際に使い方のリポートをするスタイル

⇒見た瞬間に現地スタッフと分かることで、公的に出していること・必要性があることを登山者に伝えるため

- ・登山者に携帯してもらおうという喚起を込めたリール動画のため、ナレーション＋字幕が必須。

- ・動画の流れ 「携帯トイレを知っていますか？」→「携帯トイレの説明・使い方」

→「使用する理由 環境保護」

イメージ動画

<https://drive.google.com/file/d/15sD2hQBQxqhv-8sCtvbktyD68kGmzVJ3/view?usp=sharing>

富良野岳 携帯トイレブース設置・普及キャンペーン

環境省 東川管理官事務所

背景

十勝岳連峰の南端・富良野岳は、早くに火山活動が終わったため多種類の高山植物が咲き、夏山シーズンは全国からツアー登山客や登山初心者、家族連れなど、たくさんの登山者が訪れる。十勝岳温泉登山口から山頂までは約4時間で到達することができるが、途中で常設トイレがないため、中間地点にある休憩ポイント（通称“お花畑”）のハイマツ裏に、し尿跡やトイレ使用後のティッシュが複数残置されるなど、問題となっている。

大雪山国立公園連絡協議会（以下「大連協」という）では、平成30年度に大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言を発出し、常設トイレがない場所では携帯トイレを使用することを呼び掛けている。

大連協における携帯トイレ普及の取り組みとして、十勝岳温泉登山口の常設トイレへの携帯トイレ持参チラシの掲示や、登山拠点となる十勝岳温泉、吹上温泉の温泉施設に携帯トイレ販売の協力依頼を行っている。さらに、令和5年度・令和6年度は“お花畑”にテント式携帯トイレブースを設置し、若い世代への携帯トイレの普及に向けた課題や効果的な導入のあり方等について検討を進めるため、若年層との連携を模索し、地元高校の山岳部とともに試行的に携帯トイレ普及キャンペーンを実施した。

令和7年度も前年度に引き続き、テント式携帯トイレブースの設置を行い、関係機関とローテーションを組んで維持管理を行っていく。また若年層と連携した携帯トイレ普及キャンペーンを実施する（検討・調整中）。

原因

富良野岳“お花畑”周辺で見られるし尿跡等は、常設トイレ・携帯トイレブースがないこと、山のトイレ問題を知らない登山初心者や携帯トイレを知らない道外の登山者、観光客が多いことが原因と考えられる。

対策

常設トイレ設置の可能性は低いため、登山者が多い時期に“お花畑”周辺に携帯トイレブースを期間限定で設置し、携帯トイレの利用普及を図ると同時に、関係者と合同で携帯トイレの普及キャンペーンを行う。

実施方法

- ① 設置場所：富良野岳“お花畑”
- ② 設置物： テント式携帯トイレブース
- ③ 設置期間：入林許可日以降～8月18日(月)
- ④ 実施主体・設置及び撤収：大雪山国立公園連絡協議会（事務局：環境省）
- ⑤ 維持管理：関係機関でローテーションを想定

携帯トイレ普及キャンペーン

- ・実施日 設置期間のうち1日（土曜日もしくは日曜日を想定）
- ・内容（案） 関係機関と合同で携帯トイレ普及のためのキャンペーンを実施する。登山者に対し、携帯トイレの認知度等についてのアンケート調査を行い、携帯トイレを配布し、実際に使用してもらう。



協力依頼関係機関

- ・ 上川南部森林管理署（清掃・維持管理協力）
- ・ 北海道（清掃・維持管理協力）
- ・ 上富良野町（周知協力、SNS のシェア）
- ・ 富良野山岳会（清掃・維持管理協力）
- ・ 十勝岳上富良野山岳会（清掃・維持管理協力）
- ・ 十勝岳温泉凌雲閣（清掃用具の設置）
- ・ 十勝岳ジオパーク推進協議会（清掃・維持管理協力）
- ・ 十勝岳ジオクラブ（清掃・維持管理協力）
- ・ 大雪山国立公園パークボランティア連絡会（清掃・維持管理協力）

- ・ 北海道大学 愛甲先生の生徒さん（キャンペーン）

今後のスケジュール

令和7年5月9日	大雪山国立公園連絡協議会総会
令和7年6月	詳細決定
令和7年入林許可日以降～8月18日	仮設テント式携帯トイレブース設置
令和7年7月	携帯トイレキャンペーン

維持管理スケジュール表

6 月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20 設置	21
22	23	24	25	26	27	28
29 環境省	30					
7 月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12 環境省
13 環境省 12 or 13 どちらか	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			
8 月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7 環境省	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18 撤去	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

黒岳携帯トイレ普及キャンペーン

黒岳石室には常設のバイオトイレ及び携帯トイレブースが併設されており、たくさんの方に利用されている一方で、海の日・山の日の三連休、秋の大型連休等のオーバーユースが問題となっている。また、ヘリコプターで尿を回収し、麓へ降ろす輸送費用も近年高騰し、トイレ協力金だけでは対応が難しくなっている。

大雪山では、平成 30 年度に大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言を行うなど、常設トイレがない場所での携帯トイレ使用の呼び掛けを進めており、過去に実施した携帯トイレについてのアンケートでは、携帯トイレの認知度が上がり持参率は上がっている一方、携帯トイレの使用をしたことがない登山者が多いという結果となっている。

黒岳や層雲峡地区での携帯トイレ普及の取り組みとして、黒岳登山口での携帯トイレ持参チラシ掲示や、層雲峡ビジターセンター、黒岳ロープウェイ、セイコーマート層雲峡店での携帯トイレ販売といった協力を進めているところ、令和 7 年度は、黒岳石室でのオーバーユースが想定される山の日の三連休に「携帯トイレを実際に使う」ことによって、オーバーユースでバイオトイレが使用不可にならないように、また、携帯トイレを実際に使うことによる、登山者の自然環境保全への意識向上を図るキャンペーンを行う。

- ・実施日 令和 7 年 8 月 9 日（土）～ 11 日（祝）
- ・場所 黒岳石室、層雲峡プロムナード（層雲峡温泉街）
- ・内容（案） 携帯トイレ普及のためのキャンペーンを関係機関と合同で実施する。登山者に対し、携帯トイレの説明をし、携帯トイレを配布し、実際に使用してもらい、携帯トイレの認知度や、実際に使用してみた感想についてのアンケート調査を行う。
層雲峡温泉街での山の日イベントも開催中のため、携帯トイレ利用者に対し、山の日記念グッズの配布を行う。



「大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ」の販売に関するご案内

大雪山国立公園連絡協議会事務局

大雪山国立公園連絡協議会では、携帯トイレの普及を進めるため、平成 29 年度に「大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ」を作成しました。

平成 30 年度からは、大雪山国立公園連絡協議会構成員・大雪山国立公園携帯トイレ普及パートナー事業者である（株）りんゆう観光様より、メーカーからの仕入れを一括して実施いただいております。

携帯トイレ普及のためには、携帯トイレが登山装備品と同様に位置づけられること、また、普及体制の継続性を確保する必要がある、民間の手によって自律的に流通することが重要であると考え、このような体制を構築しています。

各関係団体・事業者のみなさまにおかれましては、「大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ」の仕入れ・購入を希望される場合は、下記窓口までご連絡ください。

また、販売いただける可能性のある団体・事業者に周知のご協力をいただくとともに、販売の意向を持つ事業者がございましたら、下記連絡窓口まであわせてご一報をお願いいたします。

大雪山国立公園が抱える山岳地域のし尿問題解決のため、携帯トイレの販売に積極的なご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

大雪山国立公園オリジナル携帯トイレに関する連絡窓口

（株）りんゆう観光 層雲峡事業所

〒078-1701 北海道上川郡上川町層雲峡

TEL. 01658-5-3031 FAX. 01658-5-3019

※価格（税込み）：1 個 3 7 0 円（送料別途）

※最小販売単位：5 個

【本状連絡先】大雪山国立公園連絡協議会事務局

環境省大雪山国立公園管理事務所

〒078-1741 北海道上川郡上川町中央町603 TEL：01658-2-2574/FAX：01658-2-2681

環境省東川管理官事務所

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15 TEL：0166-82-2527/FAX：0166-82-5086

環境省上士幌管理官事務所

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33 TEL：01564-2-3337/FAX：01564-2-2933

2025 年度の取組予定

山のトイレを考える会

「情報発信・普及啓発活動」

1. 山のトイレマップ(2025 年度改定版)作成と配布（2025 年 7 月～10 月）等



「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」に少しでも貢献できるよう、2025 年度も山のトイレマップを作成して関係各所に配備し登山者への配布をお願いします。配備先は山麓の宿泊施設、ビジターセンター、森林管理署、ロープウェイ会社等に協力をいただく予定です。地域は、大雪山国立公園、知床、利尻山、及び配布を希望される山岳団体等の活動において、合計で約 10,000 部を配布する予定です。

「携帯トイレブースの維持管理活動」

2. 美瑛富士避難小屋携帯トイレブース点検パトロール活動（2025 年 6 月 22 日～10 月 5 日）

美瑛富士トイレ管理連絡会の事務局業務と点検パトロール実施とブース維持支援作業。環境省と美瑛町と美瑛富士トイレ管理連絡会が協定書を締結して固定式携帯トイレブースの点検パトロールを開始してから 7 年目です。官と民が協働する活動として有意義な仕組みです。美瑛富士トイレ管理連絡会（道内の山岳関係 9 団体で構成）の事務局業務を継続して担い、連絡会メンバーが確実に携帯トイレブース点検パトロールを実行できるように支援します。

[2025 年 点検パトロール等実施予定]

- ・6月22日；環境省・美瑛町(美瑛山岳会)・山のトイレを考える会(冬囲い外し作業含む)
- ・7月 6日；大雪山国立公園パークボランティア連絡会
- ・7月20日；札幌山岳連盟
- ・7月27日；日本山岳会北海道支部
- ・8月10日；北海道山岳・スポーツクライミング連盟
- ・8月31日；北海道道央地区勤労者山岳連盟
- ・9月 7日；北海道道北地区勤労者山岳連盟
- ・9月16日；北海道山岳ガイド協会
- ・10月5日；環境省・美瑛町(美瑛山岳会)・山のトイレを考える会(冬囲い作業含む)



昨年の点検パトロールと冬囲い作業メンバー



冬囲いされた携帯ブース

大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会の設置について

大雪山国立公園連絡協議会

令和4年5月設置

(令和6年5月改定)

大雪山国立公園連絡協議会規約第11条に基づき、次の作業部会を設置する。

1. 作業部会の名称

大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会

2. 作業部会の目的

大雪山国立公園では、野営指定地や登山道上におけるし尿排泄の問題が改善に至っていない状況にあることから、場所ごとの特性に応じ携帯トイレを利用しやすい環境づくりを進めるための検討を行うとともに、既設の常設トイレ等の再整備や改善策に関する検討を行うもの。

3. 検討内容

- (1) 野外へのし尿排泄の問題が見られ改善が必要とされる野営指定地等における、携帯トイレを利用しやすい環境づくり（携帯トイレブースの設置、維持管理、回収体制の構築、利用者向けの情報発信）
- (2) 既設の常設トイレ等の再整備及び改善策
- (3) (1)、(2) の検討にあたって必要な事項

4. 検討体制

大雪山国立公園連絡協議会会長が指名した次の者により構成する（名簿別紙）。

- (1) 大雪山国立公園連絡協議会の構成員のうちの希望者
- (2) 登山道維持管理部会（表大雪地域、東大雪地域）の構成員及びオブザーバーのうちの希望者
- (3) (1)、(2) の他、会長が出席を求める者

また、本作業部会に、検討の方向性を示し有効な議論を導くための役割をとして、コーディネーターをおくものとする。

5. 設置期間の考え方

本作業部会は、野外へのし尿排泄の問題が見られ改善が必要とされる課題箇所及び既設の常設トイレ等の再整備及び改善策について、基本的考え方及び対応方針が明らかにされるまでの間設置するものとする。

大雪山国立公園連絡協議会
大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会名簿

大雪山国立公園連絡協議会構成員
北海道地方環境事務所
上川中部森林管理署
上川南部森林管理署
十勝西部森林管理署東大雪支署
かみふらの十勝岳観光協会
(株) りんゆう観光
道北バス (株)
大雪と石狩の自然を守る会
十勝自然保護協会
北海道大学大学院環境科学研究院 渡邊 悌二教授
北海道大学大学院農学研究院 愛甲 哲也教授
北海道上川総合振興局
北海道十勝総合振興局
富良野市
上川町
東川町
美瑛町
上富良野町
士幌町
上士幌町
鹿追町
新得町
層雲峡ビジターセンター
表大雪/東大雪登山道維持管理部会構成員・オブザーバー
NPO 法人かむい
Asahidake Trail Keeper
NPO 法人大雪山自然学校
勤労者山岳連盟 (道央地区)
合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊
山樂舎 BEAR
大雪山倶楽部
TREE LIFE
山のトイレを考える会
美瑛山岳会

山岳レクリエーション管理研究会
NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター
十勝山岳連盟

2024 年 4 月現在 合計 36 機関・団体

※作業部会開催時においては、名簿に記載のない登山道維持管理部会構成員及びオブザーバーに対しても案内を行なうこととし、幅広い協議体制を確保する。